

確かな学力を身につけさせるための授業改善推進プラン

立川市立立川第九中学校

1. はじめに

学力を知識の量のみで捉えるのではなく、新しい学力観に基づいた観点からとらえる。生徒の生きる力を育成するための、授業改善推進プランと位置付ける。そのため、保護者や地域の声に耳を傾け、「生きる力」を身に付けた理想の九中生の育成を目指す。したがって、日々の教育活動での様々なデータを分析し、さらに、東京都教育委員会で実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を踏まえ、生活習慣の改善や授業の改善など、総合的な改善プランを作成する。

2. 実態に基づいた改善の方針

(1) 生徒の実態を把握する。

- ① 日常の学校生活や授業での様子・変容などについて、きめ細かく実態を把握する。
- ② 最重要でありながら流動的でもある「関心・意欲・態度」などの情意面に重点を置く。
- ③ 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を分析する。

(2) 基礎・基本をひとまとめにせず、基礎は「基礎学力」、基本は「基本的学習習慣」とし、基礎学力は「授業改善」、基本的学習習慣は「マナー・態度の向上」により、充実と定着を図る。

(3) 生徒の自己評価活動を通して、生徒の積極的な態度や自らを省みる姿勢、学ぶことの喜びを得る、あるいは、自らを奮い立たせる、そして見通しをもって学習するなど、自己コントロール学習の実現を図る。

(4) 「関心・意欲・態度」を高めるため、各教科の学習内容を、教科を越えて関連付けたり、身近な出来事と関係付けるなど、教科と生活を結び付ける能力の育成を図る。

(5) 適正な指導内容の実施と指導法の工夫に努める。

(6) 授業改善研究を進め、授業力の向上を目指す。

3. 全体での具体的な改善方法

(1) 指導計画と評価計画を一体化させ、ねらい、学習指導要領での扱い、内容、観点、評価規準、評価場面等の関連付けを明確にする。また、保護者向けの「各教科の学習について」を配布し、説明責任を果たす。

(2) 授業改善を進めるため、校内研究のテーマを「学力向上を図る～言語活動の充実～言語活動を通して思考力・判断力・表現力を高める」に定め、各教科で思考力、判断力、表現力に注目し学力向上を図る。

(3) 基礎学力定着のための「授業スキル」と基本的学習習慣確立のための「授業規律」の両面から授業改善に取り組み、定着を図る。

(4) 研究の一環として、教員間の授業見学や検証授業を通して、授業力向上につなげる。

(5) 各教科で、学習のねらいの提示方法、次につなげる評価方法、つまずきの発見方法、問題解決学習方法、自己評価・相互評価活動など、授業スキルの向上を図る。

(6) 各教科で学習したことを「総合的な学習の時間」で活用し、それが教科に戻るように、全校体制で教科講座学習に取り組む。

4. 各教科での具体的な授業改善プラン

(1) 全教科で昨年度のプランの実施状況の評価する。様子や変容の把握、指導方法の課題を分析し、観点別に課題解決のための具体的な授業改善プランを作成する。

\* 研究テーマの「言語活動の充実」に向けた取り組みを明記する。

(2) 5教科においては、7月に実施した「生徒の学力向上を図るための調査」を踏まえ、日常の生徒の様子や変容などと併せて生徒の実態を把握し、授業改善推進プランを作成する。

5. 全体計画

全体計画図



1. 国語への関心・意欲・態度

様子・変容	単元の目標や教材の目標及びねらいを明確にした授業を行うことにより、学習内容に対する見通しがもてるようになった。それに伴い、授業に対する目的意識や意欲も高まってきた。
授業改善	より主体的に学習に取り組む意識を高められるように、自己評価の方法を工夫していく。思考力・判断力・表現力をはぐくむために、言語活動を充実させ、学力の向上につなげる。

2. 話す・聞く能力

様子・変容	意見文の発表やスピーチ等の授業を通して、話の構成や展開を考えながら伝える力が身に付いてきている。聞き取りテストの実施により、要点を押さえた聞き取りが出来るようになってきている。
授業改善	自分の考えを適切に伝え、相手の話を正確に聞き取るという「伝え合い」を重視する。そのために、話し合い活動などを授業の中に積極的に取り入れ、意識させる。

3. 書く能力

様子・変容	筆者の意見や人物の心情等をまとめる力、自分の意見や感想などを書く力は高くなってきている。しかし、伝える相手のことを考え、構成を工夫し言葉に気を付けて文章を書くという点では、まだ不十分である。
授業改善	文章を書く、推敲するということが習慣になるように、授業の中で繰り返し指導していく。時と場に応じて適切な言葉づかいが出来るように、話し言葉と書き言葉の区別を徹底させ、語彙力の向上を目指す。

4. 読む能力

様子・変容	説明的文章の読解では、文章の構成や筆者の主張を読み取る力が向上してきている。文学的文章の読解では、展開をとらえ人物の心情を読み取ることが出来る。しかし、より深く読んで主題や主張をまとめる力は、まだ不十分である。
授業改善	言葉に着目して主題等を読み取る授業、人物や作者（筆者）のものの見方や感じ方・思いについて考える授業を行う。新聞や読書といった、様々なジャンルの文章を読む機会を増やしていく。

5. 知識・理解・技能

様子・変容	漢字については、新出漢字の確認や漢字小テスト等を通して、意識の向上及び基本の定着は出来てきている。言葉に関しては、文章の中で意味をとらえる機会を増やし、語彙力の向上につなげている。文法に対する苦手意識がある。
授業改善	自分が書く文章の中で漢字を適切に使用することが出来るよう、意識の向上を図っていく。言葉については、様々な文章に触れさせることで語感を磨き、言葉の使い分が出来るようにしていく。文法については、繰り返しの学習を行っていく。

## 1. 社会的事象への関心・意欲・態度

様子・変容	国調べ新聞や、歴史新聞作成において積極的にインターネット・図書室の本などを利用して自ら考えて作品を完成しようという気持ちが高まった。
授業改善	集めた資料の取舍選択を効果的に行い、わかりやすくまとめる学習をさせる。学習した内容や自身の考えを発表することにより言語活動の充実を図る。また、自分が学習した内容を発展させ他のテーマへの関連性を考えさせる。発表は展示方式をとり、他の生徒の作品を見ることにより、関心、意欲、態度を都の平均レベルを超えるようにする。

## 2. 社会的な思考・判断

様子・変容	各時代の歴史の流れを考察することにより歴史的事象について疑問をもち、自ら思考するようになってきた。
授業改善	各時代の歴史の流れを大きく捉え深く探求することにより、思考から判断を導き出していける段階まで力を身に付けさせて行く。そのためには、その時代の特性を理解できるように基本的な歴史用語をしっかりと捉え各時代の特性をノートに、まとめさせ添削する。

## 3. 資料活用の技能・表現

様子・変容	地図帳の統計資料や歴史資料、公民資料などを意欲的に読みとるようになってきた。
授業改善	三分野とも授業中に資料を取り上げるようにし、資料から何が読み取れるかをまとめ発表する機会を設ける。定期テストでも統計資料や歴史資料に関する説明を要する問題を出題することにより書いて説明する力を養う。教え合い学習を取り入れ、より深く資料を読み取る機会を作るとともに意見をまとめさせ、発表させることにより言語活動の充実を図る。

## 4. 社会的事象の知識・理解

様子・変容	単に暗記すればよいという考えから、知識として定着し活用できるようになってきた。
授業改善	よりいっそうの知識の定着を目指し、地理的事項・歴史的事項・公民的事項とも地球儀やビデオなどの教材を利用し、視覚を通した授業を行う。自分の得た知識をノートにまとめ発表する機会を設定する。

## 1. 数学への関心・意欲・態度

様子・変容	授業に取り組む姿勢はしっかりとしている生徒が多いが、宿題などの家庭学習の取り組みで改善が必要な生徒もまだ多い。また、わからない問題があったときに、わからないままにしている生徒も多く、自主的に学習に取り組む姿勢が弱い傾向がある。
授業改善	言語活動の充実を図る事を通して課題を解決するために、グループ活動等を取り入れるなどの工夫をして、数学への関心を高めてきており、さらに発展させていきたい。また自己評価カードにより、内容項目の振り返りを自主的に行わせており、意欲の向上を促している。そして、自分が学習した内容を活用して課題を解決していこうとする態度の育成も目指していく。

## 2. 数学的な見方・考え方

様子・変容	生徒にとって一番苦手とする観点であって、一度見たことのある問題には、見通しをもって取り組める生徒が増えてきたが、初見の問題では、基本的な学習内容を活用して問題を解決することを苦手としている生徒が多い。
授業改善	この観点の定着を図るためには、他の観点の「知識・理解」「表現・処理」の基本的な学習内容の定着と「関心・意欲」の向上が不可欠である。その上で、知識や表現能力を活用し、筋道を立てて問題に粘り強く取り組む姿勢を育てられるような課題を工夫するなど、数学的な活動を多く取り入れ、都平均を下回っていた思考力・判断力の育成を図っていく。

## 3. 数学的な表現・処理

様子・変容	正の数・負の数・文字式の計算問題や図形の角の大きさを求めることなど、授業で説明した形式の基礎的な表現・処理能力は定着している。ただし同じ内容の問題でも、出題の仕方が変わったりするだけでとまどったり、解けなくなる生徒もいる。
授業改善	正の数・負の数・文字式の計算問題や図形の角の大きさを求める問題では、授業開始時の復習プリントやまとめりごとの演習プリントなどで反復練習を充実させるとともに、途中式を書く指導や穴埋め問題のプリントをつくるなど解答方法の工夫を図る。また、まとめのプリントやそれに連動した小テストの実施等で定着を図るとともに、定期テストの後に間違い直しを課題として行う等、自分の理解度を自己評価し、都平均を下回っていた表現力の一層の育成を図る。

## 4. 数量、図形などの知識・理解

様子・変容	授業に真面目に取り組む生徒がほとんどなので、数量・図形・数量関係についての知識・理解は多くの生徒で定着がみられていると思われる。
授業改善	この観点の定着が、「見方・考え方」「表現・処理」の向上につながっていくと思われるので、今後も毎時間の授業で、前時の復習や本時の目標を明確にするなどの工夫や、自己評価活動により「興味・関心」の向上をはかり、さらなる定着の向上を図る。

## 1. 自然事象への関心・意欲・態度

様子・変容	生徒の自然現象への関心・意欲・態度については良好であるが、さらに一歩進んで深い部分まで考え、調べ、探求しようとする態度はやや希薄である。探究心を育成し科学に対し関心・意欲を高めていきたい。
授業改善	観察や実験の機会を増やす。また、実験方法や観察方法を考えさせ、どのような結果がでるかを生徒同士で考え合い、話し合うことを習慣付ける。そのことにより、思考力・判断力を高め、そのことにより関心や科学を探究する態度や表現力が高まっていくと思われる。また、視聴覚教材なども有効に取り入れ視覚的にも訴える授業を展開する。

## 2. 科学的な思考

様子・変容	全体的には良好であるが、科学的思考が得意な生徒と苦手な生徒の差が大きい。その差を縮める努力が必要だと思われる。
授業改善	現象を正しく把握する力、科学的かつ合理的に推論できる力。原理・原則を基に論理的に説明する力を付けさせたい。そのためには授業内で知識を伝えるばかりでなく、いろいろな場面で考える力を育成することが必要である。生徒同士のコミュニケーションを基本に、議論をさせながら正しい結論を導き出すなどの取り組みを行っていく。

## 3. 技能・表現

様子・変容	実験を数多く取り入れており、実験器具の使い方、実験の記録の方法など、基礎的なことはおおむねできていると考えられる。
授業改善	実験・観察に使う道具は必ず操作を習得させ、正しい操作方法を実際を使用することにより確認させる。また、パフォーマンステストを取り入れ、評価し確認をしていく。実験のデータのグラフ化、スケッチなども含めた観察結果のまとめ方、科学的な文章表現、実験における誤差の縮小、実験結果をもとに結論を話し合う言語活動を取り入れ表現力をたかめるなど、実験回数を数多く経験させることにより定着を図る。

## 4. 自然事象の知識・理解

様子・変容	知識・理解についてはおおむね良好である。ただ、電流や化学変化などつまづきやすい単元、移行処置などによる新しい内容にも注意して取り組んでいる。
授業改善	知識・理解を深めるために、第1に内容が整理され、しかも見通しの良い授業の展開、第2に定着を深めるための問題演習の徹底、第3に理解度を測る評価や生徒の自己評価を適切に行い、その評価をすぐに反映させ授業改善に役立てる。また、練習問題を多く解くことにより、知識や理解の定着を図る。

## 1. 音楽への関心・意欲・態度

様子・変容	全体的には音楽の学習活動に意欲的である。特に行事に向けて取り組む歌唱活動には主体的に取り組むことができる。その一方、鑑賞や創作領域においては抵抗感がある生徒も見受けられる。幅広い学習活動の中で、生徒の得意分野を伸ばし、表現も鑑賞も意欲的に取り組める、バランスのとれた生徒を育てていきたい。授業を進めるにあたって、生徒自身に目的意識や見通しをもって学習させるために、本時のねらいを明確に示し、学習カードも授業の流れにそって作成した。又、リーダーを育成し、自発的な活動から自らの課題を発見し解決していく活動も取り入れている。生徒同士がコミュニケーションを取りながら学習活動を展開させたい。
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいや授業の流れを示し、学習の対象を明確にする。</li> <li>・意欲的に学習させるために、生徒への言葉かけを多く取り入れ評価と指導の一体化を図る。</li> <li>・リーダーを中心とした主体的な学習形態を取り入れ、音楽活動への意欲を高めさせる。</li> <li>・幅広い音楽活動を取り入れ、音楽における生徒の興味・関心を更に高める。</li> <li>・新学習指導要領の指導事項や指導内容の研究を進め、実態に則した教材選択を行う。</li> </ul>

## 2. 音楽的な感受・表現の工夫

様子・変容	音楽のよさや美しさを感じ取ることは、日常生活の中で自然にできている。しかし、その音楽がどうして美しいのか、という自分にとっての価値判断は漠然としている。まして、コミュニケーションを図りながら表現活動を創意工夫していくことは、抵抗があるようだ。自分が感じ取った感覚を大切にし、それを自分の言葉として表現できるような活動を取り入れ、自分と集団の学習の質を高めたい。生徒達が考えて表現することと、教師からの出す指示のタイミングやバランスを考え、表現を工夫しようという前向きな気持ちを大切にしていきたい。
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I T Cの活用により、視覚的に音楽を捉え、興味・関心をひく教材の開発をする。</li> <li>・鑑賞領域での音楽の諸要素の働きを意図的に感じ取らせ、歌唱・器楽・創作の領域に関連させた学習を反復させていく。</li> <li>・一人一人が感受した音楽の良さや美しさを自分の言葉で説明できるようにする。</li> <li>・それぞれの個性や感性を認め合える雰囲気作りを大切にする。</li> <li>・考える時間や感じ取る時間を取り入れ、それを表現する場面を取り入れる。</li> </ul>

## 3. 表現の技能

様子・変容	発声や楽器の扱いなど基本的なことは理解している。しかし、楽譜を見て演奏する習慣がなかなか身に付かず、耳から音を聴いてコピーする習慣が身に付いてしまっている。音楽を共有する方法の一つとして、音楽用語や記号を理解させることが音楽活動の基礎なので、読譜や発声法、楽器の基本奏法をしっかり身につけさせたい。また、自己評価や生徒同士の相互評価、模範演奏の聴き取りを通して、技能における客観性を養い、自分の解釈やイメージを音を通して適切に表現する能力を身に付けさせたい。
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の基礎・基本の定着を目指し、基本的な音楽用語や記号を常に板書し、目につくようにする。また、教師も意図的に音楽における言語を効果的に使う。</li> <li>・学習形態を工夫し、コミュニケーションを取りながら学び合う雰囲気を大切にする。</li> <li>・音楽についての解釈などを伝え合う活動を取り入れ、自分なりのイメージで表現できるよう促す。</li> <li>・DVDや録音の活用、リーダーの育成を通し、身近な見本や目標を意識させた活動を取り入れる。</li> </ul>

## 4. 鑑賞の能力

様子・変容	新学習指導要領の重要事項である「言語活動の充実」を図るために、楽曲の良さや美しさを、根拠をもって批評する「批評文」を鑑賞活動の中心においている。自分の内面に生まれた様々なイメージや感情を、音楽と関連した言葉で文章にできるようになってきているが、主体的な活動として定着していない。更に、自分の発想を評価されることで、良い文章や言葉を使うことに意識がいき、難しい活動と敬遠しがちである。今後は第二観点との関連を図りながら授業展開していき、鑑賞の能力を育てていく。
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・批評と実践を結び付ける授業展開を工夫し、生徒自ら音楽要素の働きに気付くことができるようにする。</li> <li>・批評文に対する評価規準を明確に示す。</li> <li>・我が国の音楽や諸外国の民族音楽、様々な形態の音楽を鑑賞する。</li> </ul>

1. 美術への関心・意欲・態度

様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年によっては生徒が主体的に表現や鑑賞の造形活動に取り組む姿勢が低い。授業課題（テーマ）に対して継続的に関心・意欲をもって粘り強く積極的に取り組む態度でも低い学年がある。</li> <li>・美術への関心は見られるが、授業課題にあった内容の表現をすることに戸惑いや限られた時間内で計画的に作品を完成させるのが苦手である。</li> </ul>
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業が1週間隔で、実習等の作業（作品制作）への関心・意欲が低下することが考察できる。また、授業規律を中心に授業改善（授業課題を黒板に常時掲示する・前時の復習など）の充実が課題である。</li> <li>* 作品配布、用具の準備は授業前に行わせる。</li> <li>・1年生から主体性を考えさせ、行動させるように心掛ける。</li> </ul>

2. 発想・構想

様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の課題にあった発想や構想を粘り強く考え、取り組む生徒が見られた。しかし、観察をもとにする作品・自己の構想を基にする作品のどちらにおいても生徒の表現は概念的であり、漫画やキャラクターから表現をする生徒が多く見られた。</li> </ul>
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの感性を生かし、授業の課題にあった発想や構想を粘り強く考え形や色彩に形象化させる思考力と表現力が必要である。したがって、一人一人の感動体験を基に発想や構想を豊かにさせ自信をもたせる。また、アイデアスケッチなどの時間を多く確保・感動体験を豊かにするなどが課題である。</li> <li>* 上手、下手でなく粘り強く考え取り組み、達成感をもたせる指導の充実。</li> </ul>

3. 技能

様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の表現には基礎技術を忠実に再現しようとするものと最初から拒否してしまう姿勢の違いが見られた。また、技術の差はかなり開きがあるように思える。したがって、基礎・基本的な技法を向上させるとともに、より高い表現指導にも心掛ける必要がある。</li> </ul>
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業課題にあったよりよい造形表現をするには基礎的な表現技能が伴うことが重要な要素である。週時数の少ない教科であることから、基礎・基本的な技術指導や具体的（実技提示など）な技法指導が課題である。</li> <li>* 絵画では、絵の具などの描画材料や技法の指導と構図・構成指導の充実。</li> <li>彫塑では、立体材料や道具・製作技法の指導の充実。</li> </ul>

4. 鑑賞の能力

様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の鑑賞（芸術作品・生徒の制作作品）は、多くの生徒は興味や関心をもって取り組む姿勢が見られた。しかし、生徒の感性（経験・体験・概念など）によって大きく鑑賞への意識に差が見られた。</li> </ul>
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の鑑賞は自己が作品からどのような受け止めができるかが大切である。芸術作品、生徒の作品、などから伝わる時代的背景や表現の違いを感じ取れる指導が課題である。</li> <li>* 芸術作品を授業作品と関連させた鑑賞 指導の充実。</li> <li>* 生徒の感動体験を豊かにする幅広い人間性と社会性を育む指導の充実。</li> <li>* 生徒の鑑賞の能力を定期テストにより評価する。</li> </ul>

1. 運動・健康・安全への関心・意欲・態度

様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元のねらい、本時のねらいを明確にしていくことで、各学年とも、単元の目標や自己の課題を理解して、授業に取り組むことができた。</li> <li>T・T、少人数指導を生かし、保健体育に苦手意識をもっていたりする生徒に対しても個別に指導を行うことができ、授業に取り組む意欲も高まってきた。</li> <li>水泳における、見学者が減ってきた。</li> </ul>
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業のねらいを明確に伝え、授業に意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>見学者に対しても、単元のねらいをしっかりと確認させ、活動できる範囲で課題を設定していく。</li> </ul>

2. 思考・判断

様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カードや学習ノートに、相互にアドバイスし合ったり、評価し合ったりする欄を設けたことで、生徒が授業の内容に関して話をする場面が多くなるなど、言語活動の充実につながり、思考力、判断力、表現力の向上へつながってきた。</li> <li>単元の終わりだけではなく、教員からの評価を適宜生徒に返すことによって、生徒が成果や課題を振り返り、次時の学習に生かしている。</li> </ul>
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>より高次の言語活動が促せるよう、引き続き、教材、場の設定、学習カード等を工夫していく。</li> <li>授業内における評価方法について、T T指導・少人数指導を活用し、効果的に実施することを工夫していく。</li> </ul>

3. 運動の技能

様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人で練習をするだけでなく、お互いにアドバイスし合うなど、言語活動を手立てとして、技能を高められるようになってきた。</li> <li>技能を上達させるためにどのような練習をしたら良いか、考えて練習できるようになってきた。</li> <li>生徒による技能の相互評価の時間を設けたことで、言語活動が活性化し、技能が向上してきた。</li> </ul>
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が能力を最大限に発揮できるよう、それぞれの生徒の実態に合った場面を設定し、A・Cと判断される生徒への具体的な手立てを考える。(個別の課題設定、T T指導の効果的活用)</li> <li>運動時間の確保のため、効率よくカード記入が行えるような授業展開を考える。考えたり振り返ったりする時間も大切だが、全ての時間にカードを使用するという方法を見直す必要もある。(例…カード使用は5時間程度)</li> </ul>

4. 知識・理解

様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カード、口頭での説明、板書等、様々な方法を使って繰り返し基本的な知識に関する説明をしているので、多くの生徒に知識が定着してきた。</li> <li>保健分野の授業にも、興味をもって取り組む生徒が増えてきており、効果的に授業が展開できるようになってきた。</li> </ul>
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>実技、体育に関する知識、保健分野の授業を関連させて指導することで、専門的な知識に基づいて体を動かすことの重要性について考えられるようにする。</li> <li>保健分野においても、授業中に身に付けさせることを基本に授業改善し、ワークシート等の工夫をしていく。</li> <li>保健分野におけるT T指導・少人数指導の効果的な実施方法の研究を進めていく。</li> </ul>

資料8 平成23年度授業改善推進プラン 【技術・家庭】 観点ごとの分析と授業改善

1. 生活や技術への関心・意欲・態度

様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は、部品加工がほぼ完成してきており、完成した形が想像できるようになってきている。</li> <li>・2年生は、制作が始まったところでデザインが具体的になってきた。それが意欲につながると考える。</li> <li>・3年生の栽培実習では、夏休みの管理が終了し、急に成長しはじめているので意欲が増してきた。</li> <li>・家庭科は、1・3年生は意欲的に作品を製作している。1年生の作業はゆっくりだが丁寧に仕上げる。3年生は作業が早い生徒が多い。2年生調理実習では意欲が高まっている。</li> </ul>
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加工した部品の完成度を上げていくために各部品のチェックをする。</li> <li>・記入しやすいノート、自己評価カードを改善し一層工夫する。</li> </ul>

2. 創意・工夫

様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は、かんなを上手く使えるように刃の出し方や削り方など工夫している。2年生は各自が考案した基本的なデザインから更に工夫している。</li> <li>・3年生は栽培記録や普段の水やりを工夫するようになってきた。</li> <li>・1年生は作品の図案や計画で自分らしさを出す工夫をしている。</li> <li>・2年生は献立作成で工夫がみられた。</li> </ul>
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創意工夫を導き出すように、例題作品を見せたり、生徒作品を見せていく方法を実践する。かんなの刃の出具合については、教師の見本をおいて見比べ工夫させている。</li> <li>・3年生では、栽培記録を工夫した生徒の作品をコピーして掲示し工夫を促していく。</li> <li>・1、2年生の作品作りではデザイン等自分で工夫し、思考力、判断力、表現力の育成をする。</li> </ul>

3. 技能

様子・変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年とも個々の生徒に対応した技術指導をすることで、時間も考えた上で意識して丁寧に作業する生徒が増えている。</li> <li>・1年生は作業を丁寧にする生徒が多い。2年生の調理では包丁の手さばきの個人差が大きい。</li> <li>・3年生はミシンの使い方が上達してきた。</li> </ul>
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の作品を観察させることで技能の向上をめざしていく。</li> <li>・ペア学習をさせ、相手の良い点や問題点をまとめ、言語活動の充実を図り修正する力を身につけさせたい。</li> <li>・包丁の扱いは、実習を通して数多く体験させていく。</li> <li>・包丁の使い方やミシンの使い方など実技テストを行うことで基礎的な技術や技能を高める工夫をする。</li> </ul>

4. 知識・理解

様子・変容	<p>家庭で簡単にできる体験が重要だと考え、家庭で簡単にチェックできる課題を出してみることで、技術・家庭で学んでいることが生活に関係していることが理解できたと思う。</p>
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題を解く力や作品を作る技能は個人差がすぐに表れてくるため、授業中つまづいている生徒への個人指導を充実させたい。今後は昼休みや放課後の指導も継続したい。</li> <li>・小テストを行い知識の定着を図っていく。</li> <li>・知識・技能の体験から他人へのアドバイスや意見を発表させ、個々に修正する力を養っていきたい。身に付けた知識を実生活に活用できるような課題をさらに考え与える。</li> </ul>

## 1. コミュニケーションへの関心・意欲・態度

様子・変容	英語で会話を行う場面を多く作るようにした結果、生徒が意欲的に会話に参加する様子が見られた。 スキット・スピーチ発表や音読テストの実施により、より意欲を高めることができた。
授業改善	「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では点数がこの観点において都の平均よりも低かったので、さらに関心・意欲・態度を向上させるために視覚的教具（ピクチャーカード、フラッシュカード、絵、写真、ワークシート）の工夫を継続して行う。 加えて、生徒にとって、英語を使う状況を授業内で設定する。ペアワークやグループワークなど形態を多様化し、言語活動の充実を図る。

## 2. 表現の能力

様子・変容	スピーチの作成、発表やスキットの発表は生徒にとって表現する意欲を高め、自信につながるものになった。 1年生の段階からプレゼンテーションやスキット等、表現活動を授業に取り入れている。 個人の上達度を測るための音読テストを実施している。
授業改善	教科書の音読に重点を置き、音声を意識することにより単語の綴り（phonics）の定着を図る。 教科書の本文を全生徒が読めるようになるように、授業においてコーラスリーディングの徹底、音読方法への工夫を試みる。 授業内で話したり、書く機会を増やすことで思考力・判断力・表現力の育成を図る。

## 3. 理解の能力

様子・変容	listening や文法の復習教材を使い、英文を理解する力を育てた。reading や listening における理解の能力が高まった。 TF や QA 練習を継続的にを行い、理解力が向上した。
授業改善	長文読解や英文を読むことに慣れる、また楽しむ活動として、定期的な読解指導を行う。「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では都平均を上回ったので、従来の指導を続けていく。

## 4. 言語や文化の知識・理解

様子・変容	phonics における綴りと読みについて、音読をとおして再認識させることは有効であった。綴りが読めるようになる事により、内容の理解につながった。 lesson 終了毎に小テストを、授業進度に応じて単語テストを行い、書く力を養成した。
授業改善	文法的な知識の定着理解にはやはり授業における内容が理解しやすいものである必要が高い。 そのために導入、練習、展開の3段階をもうける。 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では都平均を上回ったので、従来の指導を続けていく。